

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：32510  
研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2008～2011  
課題番号：20320073  
研究課題名（和文） 語彙とテキスト理解：読解に関わる語彙知識の多面性と語彙の意味について  
研究課題名（英文） Lexicon and text understanding: Multidimensional word knowledge and word meaning in text/discourse comprehension.  
研究代表者  
堀場 裕紀江 (HORIBA YUKIE)  
神田外語大学・言語科学研究科・教授  
研究者番号：40316831

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：語彙、テキスト理解、語彙知識の多面性、日本語、方言、テンスとアスペクト、言語テスト、読解タスク

## 1. 研究計画の概要

テキスト理解にかかわる言語（語彙）とそれに関する知識（語彙知識）について理論的・記述的・実証的研究を行い、言語教育に向けての有益な示唆を提供すべく、

(1) 中上超級レベルの日本語学習者を対象とした語彙知識の多面的特徴について測定するテストを開発する。

(2) 第二言語（日本語・英語）における語彙知識とテキスト理解の関係についての研究を行う。

(3) 日本語教育で教えられる日本語がどのような言葉を基盤としているのかについての基礎的な研究、および学習者の日本語の発音についての研究を行う。

(4) テキスト理解におけるテンス・アスペクトの解釈を決定する要因についての研究を行う。日本語学習者のテンス・アスペクトの使用状況を調査する。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 中級～超級学習者を対象とした2種類の語彙テスト（JWMT:語義テスト・JWAT:関連語テスト）の開発については、日本語能力試験出題基準1級～4級の語彙および様々な辞書を使って候補語を抽出し、テスト問題を作成をしながら絞り込み、最終的に候補語彙約800語の中から4つの頻度レベルにつき39語、計156語を対象語として決定した。

これらの語彙テストを使って、国内および国外（中国・韓国）で数回の調査を実施し、学習者・母語話者あわせて約400名から収集した応答データを項目毎に分析し、テストの

信頼性と有効性を確認した。この完全版をもとに簡略版テストを作成し、その信頼性を確認した。これら語彙テストの応答データは、語の特徴、知識の要素、および、学習者要因の点から分析を進めている。

(2) 日本人大学生145名を対象にした英語の読解と語彙の関係についての研究については、再生および語彙テストのデータをもとに、タスク、トピックへの興味、テキストの因果構造の効果について分析した。また、新しい読解および読み書き研究（理論的・実証的）の動向について文献を調べた。

今回開発した語彙テストを使った新しい実験については、読み材料の選定と候補テキストの分析と調整、読解タスクの作成などを行い、予備実験を経て本実験を開始した。英語の実験は、日本人大学生80名から語彙、読解および作文のデータを収集した。日本語の実験はデータを一部収集した。

(3) 中国の日本語学習者の談話資料を作成し、そのアクセントを語彙力と比較した。共通語・東京語の基礎となる首都圏方言について、その語彙やアクセントなどを調査した。

(4) テイルの多義的意味、および文の継起的・同時的解釈の決定にも関わる事象の限界性の決定要因を概念意味論によって分析した。中国語母語話者による日本語会話データからテンス、アスペクトの使用状況の調査を行った。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。  
(理由)

(1) 2種類の語彙テストは完全版および簡略版を完成させた。応答データは語の頻度と種類、連想の種類、言語習熟度、母語、学習環境の影響について分析している。

(2) 英文読解と語彙の研究は再生データを分析し、タスク、トピックへの興味、テキストの因果構造の効果を確認した。新しい実証研究については、英語の実験は、すでに語彙、読解、作文のデータを収集した。日本語の実験は、予備実験を経て本実験を開始した。

(3) 日本語学習者のアクセントについては、談話に現れる名詞のアクセントの正確さと語彙テスト成績、学年との関連を確認した。首都圏方言については複数の場所で調査を行い、それぞれの特徴をまとめている。

(4) テンス・アスペクト研究に関しては、言語表現としては現れない規則がテンス・アスペクト解釈に関わることを確認した。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 語彙テストのデータについては、引き続き多面的分析を行う。英語および日本語の語彙と読解(および作文)の実験については、データの分析結果にもとづき考察を行い、語彙知識の多面性と読解の関係を明らかにする。同時に収集した作文データを分析し、語彙知識と読み書き能力との関係を探る。

(2) 日本語学習者の談話については、名詞以外の語のアクセントやイントネーションなどの分析を行う。首都圏方言については、調査地域を広げ調査地点も多くした上で、東京語との関連についてより精密な記述を目指す。

(3) 日本語学習者のテンス・アスペクト使用状況の分析を完了させ、テンス・アスペクトの習得に影響する要因を考察する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

① Horiba, Y. (印刷中). Word knowledge and its relation to text comprehension: A comparative study of Chinese- and Korean-speaking L2 learners and L1 speakers of Japanese. *The Modern Language Journal*. 査読有

② 堀場裕紀江・西菜穂子・松本順子・鈴木秀

明・李榮・山方純子 (2011). 日本語学習者の語彙知識の多面性: 中国語母語話者の場合.

*Scientific Approaches to Language*, 10. 神田外語大学言語科学センター. 査読無

③ 木川行史 (2011). 一人称代名詞としての「自分」. *言語科学研究*, 17, 39-65. 神田外語大学大学院. 査読無

④ 岩本遠億 (2010) 経路移動事象の両義的限界性と増分性. *レキシコンフォーラム*, 5, 53-98. 査読無

[学会発表] (計13件)

① Horiba, Y., & Fukaya, K. (2010. 8. 17). *Second language readers' memory for narrative texts: The effect of interest and causal reasoning*. Society for Text and Discourse. 米国・シカゴ.

② 堀場裕紀江・松本順子・西菜穂子・李榮・山方純子 (2010. 7. 31). 第二言語学習者と母語話者の語彙知識: 語項目、知識の要素、言語習熟度の影響. International Conference on Japanese Language Education. 台湾・台北.

③ Horiba, Y. (2010. 3. 7). *Word knowledge of nonnative and native speakers of Japanese*. American Association for Applied Linguistics. 米国・アトランタ.

④ Iwamoto, E. (2009. 9. 3). *Toward the typology of stativization: The polysemous behavior of the Japanese Te-iru form*. International Conference on Tense, Aspect and Modality. フランス・パリ.

⑤ Horiba, Y., & Matsumoto, J. (2009. 7. 14). 日本語語彙テストの開発. Japanese Studies Association of Australia-International Conference on Japanese Language Education. オーストラリア・シドニー.

⑥ 岩本遠億 (2009. 6. 20). 概念構造と空間構造の接点. 日本言語学会. 千葉.

[図書] (計2件)

① Horiba, Y., & Fukaya, K. (印刷中). Effects of task instructions on text processing and learning. In A. Shehadeh & C. Coombe (Eds.), *Researching task-based language learning and teaching in EFL contexts*. John Benjamins Publishing. 査読有

② 岩本遠億 (2008) 事象アスペクト論. 開拓社